

I 読解力向上にかかわる今後の取組について

2018年度 *気づく *掴む



2019年度 *挑む



2020年度 *生かす

- 1) RST本格実施
 - ・ 中学1年生677人 中1・小6担任50人 実施
 - ・ 2020年度 小学校5年生実施に向けての準備
経年変化を追跡する。(校長会との実施に向けての調整)
- 2) 国語科授業改善推進委員会
 - ・ 授業改善への提言
 - ・ 子ども読書活動推進計画の推進
 - ・ 授業づくりコーディネーター2人体制の運用
- 3) 図書館改造カリキュラム
 - ・ 城東小学校による図書館活用促進計画実施
 - ・ 図書館活用カリキュラムの策定(各小中学校)
- 4) 専門機関との連携
 - ・ 一般社団法人 教育のための科学研究所との連携
 - ① 代表理事・所長 **新井紀子** 氏 講演(国立情報学研究所 所長)
 - ② 研究員による授業設計 研修会 年2回
 - ③ RST改善研究への参加 名大名古屋大学工学部 准教授 **松崎拓也** 氏
 - ・ 読解力プログラムの共同研究者選考
 - ・ 図書館関係者による連続セミナー(地方創生アドバイザー事業)
 - ① 図書館活用アドバイザー 元皇學館大学教育学部 助教授 **小幡章子** 氏
 - ・ 母親への読書指導(東児童センター)
 - ① 愛知文教女子短期大学 准教授 **真下あさみ** 氏
- 5) 市立図書館と学校図書館の連携強化
 - ・ 楽田メディアセンター(仮称)活用計画策定
司書の常勤化
 - ・ 学校図書館司書増員(7名 → 13名)

II 読解力の向上を目指す授業改善

- 1) 全ての教育活動を通して読解力の向上を目指す。
- 2) 読解力向上プログラムの検証
 - ① RST(中1)
 - ② 全国学力学習状況調査(小6・中3) 読解力の比較・読書の意識調査
 - ③ 検証・共同研究に向けての識者・専門機関の発掘
- 3) 情報発信

III 読書指導計画

<文化スポーツ課>

- ・ 犬山市子ども読書活動推進計画
図書館関係者による連続セミナー(地方創生アドバイザー事業)
- ・ 楽田メディアセンター(仮称)活用計画策定

- 司書の常勤化
- <学校教育課>
 - ・図書館司書の連携強化
 - ・図書館改造計画
- <子ども未来課>
 - ・母親読書指導

IV 施策遂行にあたっての必須要件

1) 教職員の多忙化解消

新学習指導要領で加えられる内容により、学校は更なる負担増となっている。市の重要施策である読解力を向上させ、感性を磨き、非認知能力を高めるためには、学校の業務を整理したり、人員を大幅に増大したりする必要がある。

- ・学校業務支援員（スクールサポートスタッフ）の配置
- ・部活動指導員の増員

など